

< 研究ノート >

## 看護師と他の女性労働者の間の仕事に対する価値観の差に関する統計分析<sup>1</sup>

### Statistical Analysis about the Differences of the Sense of Values for Works between Nurses and Other Female Workers

坪井秀介<sup>1</sup>, 竹下 諒<sup>2</sup>

Shusuke TSUBOI, Ryo TAKESHITA

1 常葉大学健康科学部看護学科

Department of Nursing, Faculty of Health Science, Tokoha University

2 常葉大学法学部法律学科

Department of Law, Faculty of Law, Tokoha University

#### 【要 旨】

少子高齢化を迎えた日本では、より一層看護師の需要が増加することが予想される。多くの先行研究は、看護師を目指す者の志望理由に、「他者の役に立ちたい」、「安定した職業である」を挙げている。しかし、これらの結果は看護学生や看護師のみを対象とした分析に基づいている。そこで、本研究では、看護師とそれ以外の女性労働者の間で仕事に対する価値観が異なるかどうか統計的に分析した。分析の結果、職業の安定性や収入の重要性は、看護師と看護師以外の女性労働者の間で差がなかった。一方、看護師は専門的・技術的職種以外の女性労働者よりも、自分の能力が発揮できることと世の中のためになる仕事であることを重視することが確認された。社会人経験を経た看護学生の志望理由に関する先行研究、政府統計資料、本研究の結果から、看護師の賃金の上昇は、主に他の職業から看護師に転職することを促すことが考えられる。一方、看護師になる決定的な要因が「世の中のためになる仕事であること」であれば、看護師数の増加のためには学生に対するキャリア教育の段階で看護職について触れる機会を増やす必要があると考えられる。

---

Key Words : 看護師, 仕事に対する価値観, 収入, 利他性

Nurse, Sense of values for work, Income, Altruism

<sup>1</sup> 本研究の分析に当たり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター SSJ データアーカイブから〔「2005年 SSM 日本調査, 2005」(2005SSM 研究会データ管理委員会)〕の個票データの提供を受けた。

## 1 はじめに

少子高齢化を迎えた日本では、看護師需要がより一層、増加することが予想される。川越<sup>1)</sup>の推計によると、2005年から2006年の看護師の新規養成、再就業、離職の状況はそれぞれ約4.7万人、約9.5万人、約12万人となっている。そして、2025年までの看護師需要に対応するには年平均2.6万人の増加が必要であるが、これは現在の新規養成、再就業、離職のバランスが保たれることで全体としては達成可能なレベルであるとの推計結果も示されている。

一方、看護師の労働環境は決して良くないことが各種調査で明らかにされている。自治労連本部・自治体病院闘争委員会<sup>2)</sup>は、2010年に行われた「看護職員の労働実態調査」の集計結果から、超過勤務の増大、健康被害、有給休暇や休憩時間の取得困難等が明確になったとし、調査が行われた20年前と比較して看護師の人員は増加したものの、労働実態が悪化していると述べている。また、日本医療労働組合連合会<sup>3)</sup>において、調査回答者の約3分の2が不払い労働（サービス残業）を行っていることが明らかにされている。

同程度の賃金であれば、労働環境が良い職に就きたいと考えるのが一般的であろう<sup>2)</sup>。しかし、看護師になろうと考える学生は確実に存在する。厚生労働省<sup>5)</sup>によれば、今年度の看護師国家試験受験者数は5万6,381人である。また、日本看護協会<sup>6)</sup>によると、2015年時点の看護師人数は117万6,859人にもものぼるとされている。これは、看護師として働くことは他の職業に就くことよりも魅力的だからと考える人数が一定程度いることを示唆している。

では、看護師として働く理由はどのようなものが考えられるだろうか。多くの先行研究は、利他性や収入・職業の安定性（酒井他<sup>7)</sup>、堀井他<sup>8)</sup>）を指摘している。しかし、対象を看護師に限定して分析を行っているため、これらの要因が看護師特有のものであるのか、それとも他の職業に就いている女性も同様の考えを持っているのか区別することができない。そこで、本研究では、看護師の仕事に対する価値観が他の女性労働者と大きく異なっているかどうかを比較することを目的とする。

本研究の構成は以下の通りである。次節では、看護師や看護学生を対象に、看護師を志した理由を分析している先行研究を紹介する。第3節では研究方法を説明し、第4節ではデータを用いた分析結果について言及する。第5節で考察を行い、第6節で本研究の限界と課題述べる。第7節で結論を示す。

## 2 先行研究

本節では、学生が看護師を目指す理由を分析している研究、また現在働いている看護師が仕事に対してどのような価値観を持っているかを分析している研究について検討する。

中谷他<sup>9)</sup>は、自校の学生に対してアンケート調査を行い、看護に進学した動機についてたずねている。人数が多かった項目として、「手に職をつけたかったから」、「就職に困らないと思ったから」、「収入が安定している」といったものを挙げ、大学ではあっても、就職に困らないことや収入の安定性を求めることを理由に看護を選択している者が多いことを明らかにしている。一方、「人の役に立ちたかった」という答えも多いことも指摘している。また、阿部他<sup>10)</sup>（調査対象：大学生と専修学校生）、一柳他<sup>11)</sup>（調査対象：看護学生）、上妻他<sup>12)</sup>（調査対象：看護養成課程を持つ大学と看護専門学校の学生）、田島<sup>13)</sup>（調

<sup>2)</sup> Tsuboi and Takeshita<sup>4)</sup>の推定によると、看護師が含まれる専門的・技術的職業従事者の賃金はそれ以外の職業の労働者の賃金より有意に高いが、専門的・技術的職業従事者の間では看護師の賃金が有意に高いという仮説は棄却されている。

査対象：新卒看護師）において、看護を選択する理由に関しては中谷他<sup>9)</sup>と同様の結果が報告されている。

諸外国においても、看護師を目指す理由や看護師として勤務する理由をたずねている研究が存在する。McCabe et al.<sup>14)</sup>はオーストラリアの看護師を対象にしたアンケート調査を用いて因子分析を行い、社会に強く貢献できることや他者を助けることといった項目が含まれる看護師固有の魅力が分散の29.4%を説明できることを明らかにしている。そして、雇用の安定性は、残りの分散である32.5%のうちの8.2%を説明するとしている。Mooney et al.<sup>15)</sup>は、アイルランドの看護学生23名のインタビュー調査から、多数の学生が他人を助けたいと考えていることを明らかにしている。さらに、職業の安定性も仕事の選択に影響を与える一つの要因であることにも言及している。

しかし、これらの先行研究は看護師または看護学生に対して行ったアンケートを中心に分析しているが、比較対象が存在しない。つまり、これらの結果は看護師特有のものなのか、それとも他の女性労働者も同様に考えているのか判断できない。そこで、本研究では、看護師の大部分が女性であることを考慮して、他職種の女性労働者と看護師の仕事に関する価値観の比較を行う<sup>3)</sup>。

### 3 研究方法

#### 3.1 使用したデータの説明

本研究では、「2005年社会階層と社会移動調査（2005年SSM日本調査）」<sup>17)</sup>を利用する。SSM調査は1955年から10年おきに実施されている全国規模の調査である。調査項目には性別、年齢はもちろんのこと、仕

事に関することや個人の価値観についても設定されている。2005年SSM日本調査が対象としている年齢層は20歳から69歳であり、調査の回答者数は5,742名であった。本研究ではそのうち、女性労働者のみを分析対象とする<sup>4)</sup>。本研究において女性労働者のみを分析対象とする理由として、2005年SSM日本調査の回答者のうち、男性看護師は2名しか存在せず、男性看護師と他職種の男性労働者の間で仕事に対する価値観の差を分析することが困難であることが挙げられる。女性労働者を看護師のグループ、看護師を除いた専門的・技術的職業従事者、専門的・技術的職業以外の女性労働者の3つのグループに分ける。そして、以下の質問項目の回答に関してそれぞれのグループの平均値を算出し、その後、平均値の差の検定を行う。質問項目によっては無回答の者も存在するが、それぞれのグループにおける最大のサンプルサイズは、看護師39人、看護師を除いた専門的・技術的職業従事者119人、専門的・技術的職業以外の女性労働者610人となっている。

次のような仕事に関することからは、あなたにとってどの程度重要でしょうか。

- ア) 失業の心配がないこと
- イ) 収入が多いこと
- ウ) 興味のある仕事であること
- エ) 職場の仲間と共同で作業ができること
- オ) 自分の能力が発揮できること
- カ) 世の中のためになる仕事であること
- キ) 働く日や時間の融通がきくこと
- ク) 仕事と家庭が両立できること

<sup>4)</sup> 2005年SSM日本調査のうち、価値観に関する質問はA票とB票に分かれている。アンケート回答者はA票かB票どちらか一方を答えており、本研究で使用する質問項目はA票に含まれている。よって、本研究で使用できるサンプルサイズは、2005年SSM日本調査に含まれる女性労働者すべてではない。また、本研究では、現在の仕事に関する質問において、経営者・役員、常時雇用されている一般従業者、臨時雇用・パート・アルバイト、派遣社員、契約社員・嘱託のいずれかを選択した回答者を労働者とみなした。自営業主・自由業者、家族従業者、内職は本研究の分析対象から除外している。

<sup>3)</sup> 厚生労働省「平成28年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況」<sup>16)</sup>から、2005年SSM日本調査の調査時期に近い2006年時点での女性看護師の割合は95.3%と算出され、看護師の多くが女性であることがわかる。

これらの質問について、回答者は5つの選択肢のなかから選ぶ。分析結果の解釈を容易にするため、本研究では実際の質問票の選択肢に対して割り当てられた数字の順を逆に使用した。具体的には、以下のような順序にした。1：まったく重要ではない，2：重要ではない，3：どちらともいえない，4：重要である，5：非常に重要である。

### 3.2 分析方法

分析方法には Welch の t 検定を用いる<sup>5</sup>。これによって、看護師とそれ以外の労働者における仕事に対する価値観の点数の平均値の差を検定する。統計分析に使用したソフトは Stata 15 である。

本研究では、専門的・技術的職業（看護師を除く）の女性労働者、専門的・技術的職業以外の女性労働者、看護師の間で仕事に対する価値観が異なるのかどうかを検定している。表1は、2005年SSM日本調査が専門的・技術的職業に分類した職種の一覧である。看護師と看護師を除いた専門的・技術的職業従事者の比較を行う理由は、2005年SSM日本調査では看護師も専門的・技術的職業に含まれており、同じ専門的・技術的職業の労働者の中でも看護師とそれ以外の労働者の間で仕事に関する価値観の違いが存在するか検証するためである。

### 3.3 倫理的配慮

本研究は、すでに行われたアンケート調査を利用した分析に基づいている。そして、提供されたアンケート調査は個票データであるが、すでに匿名化されている情報であり、特定の個人を識別することができないものとなっている。また、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJデータアーカイブにデータの利用

<sup>5</sup> Welch の t 検定は、2つの標本の平均値が異なるかどうかを検定する方法である。この手法を用いる場合、2つの標本の母分散が等しいという仮定を必要としない。

申請した研究者のみしか個票データを閲覧できないようにし、個票データが外部に決して流出しないよう取り扱った。データの利用期限は1年間となっており、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJデータアーカイブの利用規約を順守し、期限終了までに本研究で使用したデータは削除する。

## 4 分析結果

本節では、仕事に対する価値観の質問の得点について行った平均値の差の検定結果を見ていく。その結果が表2、表3に示されている。

まずは、個々のグループの平均値について概観する。看護師のグループにおいて一番平均点が高かった質問項目は、「仕事と家庭が両立できること」と「自分の能力が発揮できること」で4.33点である。「失業の心配がないこと」と「収入が多いこと」も平均で4点を超えており、経済的な面はかなり重視されている事柄であることがうかがえる。

専門的・技術的職業以外の女性労働者のグループでは、「失業の心配がないこと」が一番重視されており、ついで「仕事と家庭が両立できること」となっている。一方で、一番平均点が低かった質問項目は「世の中のためになる仕事であること」となっており、約3.55点である。

看護師を除く専門的・技術的職業に従事する労働者のグループでは、看護師のグループと同様に「自分の能力が発揮できること」の平均点が一番高く、約4.32点であった。ついで、「興味のある仕事であること」と「仕事と家庭が両立できること」が約4.29点であった。

平均点が4点を超える項目をグループごとに整理してみると、看護師では「失業の心

表1 2005年SSM日本調査が分類する専門的・技術的職業一覧

|                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 自然科学系研究者(0)          | 高等学校教員(4)           |
| 人文科学系研究者(0)          | 大学教員(1)             |
| 機械・電気・化学技術者(2)       | 盲・ろう・養護学校教員(0)      |
| 建築・土木技術者(2)          | その他の教員(5)           |
| 農林技術者(0)             | 宗教家(0)              |
| 情報処理技術者(2)           | 文芸家、著述家(0)          |
| その他の技師・技術者(1)        | 記者、編集者(2)           |
| 医師(1)                | 彫刻家、画家、工芸美術家(0)     |
| 歯科医師(0)              | デザイナー(1)            |
| 薬剤師(4)               | 写真家、カメラマン(0)        |
| 助産師(1)               | 音楽家(0)              |
| 保健師(2)               | 俳優、舞踏家、演芸家(0)       |
| 栄養士(3)               | 職業スポーツ家(0)          |
| 看護師(39)              | 獣医師(0)              |
| あん摩・はり・きゅう師、柔道整復師(1) | 保育士(14)             |
| その他の保健医療従事者(19)      | 社会福祉事業専門職員(12)      |
| 裁判官、検察官、弁護士(0)       | 個人教師(14)            |
| その他の法務従事者(1)         | 不動産鑑定士(0)           |
| 公認会計士、税理士(0)         | 経営コンサルタント(0)        |
| 幼稚園教員(3)             | アナウンサー（ラジオ・テレビ）(0)  |
| 小学校教員(16)            | 図書館司書(0)            |
| 中学校教員(6)             | その他の専門的・技術的職業従事者(2) |

注) カッコ内の数字は分析に使用した人数の内訳を示す。

表2 看護師と女性労働者（専門的・技術的職業除く）の比較

| 設問                       | 区分          | サンプル<br>サイズ | 平均     | 標準偏差   | 差          |
|--------------------------|-------------|-------------|--------|--------|------------|
|                          |             |             |        |        | t値         |
| ア) 失業の心配がないこと            | 看護師         | 39          | 4.3077 | 1.0299 | 0.0824     |
|                          | 専門的・技術的職業以外 | 608         | 4.2253 | 0.7766 | 0.4906     |
| イ) 収入が多いこと               | 看護師         | 39          | 4.0769 | 0.8074 | 0.0374     |
|                          | 専門的・技術的職業以外 | 608         | 4.0395 | 0.7204 | 0.2826     |
| ウ) 興味のある仕事である<br>こと      | 看護師         | 39          | 3.9487 | 0.8255 | 0.0458     |
|                          | 専門的・技術的職業以外 | 608         | 3.9030 | 0.7672 | 0.3369     |
| エ) 職場の仲間と共同で作<br>業ができること | 看護師         | 39          | 3.9487 | 0.8255 | 0.2333 *   |
|                          | 専門的・技術的職業以外 | 608         | 3.7155 | 0.8414 | 1.7085     |
| オ) 自分の能力が発揮でき<br>ること     | 看護師         | 39          | 4.3333 | 0.6623 | 0.3876 *** |
|                          | 専門的・技術的職業以外 | 608         | 3.9457 | 0.7297 | 3.5205     |
| カ) 世の中のためになる仕<br>事であること  | 看護師         | 39          | 3.9487 | 0.8568 | 0.3960 *** |
|                          | 専門的・技術的職業以外 | 608         | 3.5526 | 0.7957 | 2.8102     |
| キ) 働く日や時間の融通が<br>きくこと    | 看護師         | 39          | 4.1026 | 0.6405 | 0.0649     |
|                          | 専門的・技術的職業以外 | 610         | 4.0377 | 0.7340 | 0.6074     |
| ク) 仕事と家庭が両立でき<br>ること     | 看護師         | 39          | 4.3333 | 0.5774 | 0.1609     |
|                          | 専門的・技術的職業以外 | 609         | 4.1724 | 0.7105 | 1.6619     |

注) \*は有意水準 10%, \*\*\*は有意水準 1%をそれぞれ示す。

表3 看護師と専門的・技術的職業従事者の比較

| 設問                   | 区分        | サンプル<br>サイズ | 平均     | 標準偏差   | 差<br>t値    |
|----------------------|-----------|-------------|--------|--------|------------|
| ア) 失業の心配がないこと        | 看護師       | 39          | 4.3077 | 1.0299 | 0.0556     |
|                      | 専門的・技術的職業 | 119         | 4.2521 | 0.8048 | 0.3077     |
| イ) 収入が多いこと           | 看護師       | 39          | 4.0769 | 0.8074 | 0.2114     |
|                      | 専門的・技術的職業 | 119         | 3.8655 | 0.7470 | 1.4448     |
| ウ) 興味のある仕事であること      | 看護師       | 39          | 3.9487 | 0.8255 | -0.3370 ** |
|                      | 専門的・技術的職業 | 119         | 4.2857 | 0.5843 | -2.3627    |
| エ) 職場の仲間と共同で作業ができること | 看護師       | 39          | 3.9487 | 0.8255 | 0.2538     |
|                      | 専門的・技術的職業 | 118         | 3.6949 | 0.9292 | 1.6119     |
| オ) 自分の能力が発揮できること     | 看護師       | 39          | 4.3333 | 0.6623 | 0.0140     |
|                      | 専門的・技術的職業 | 119         | 4.3193 | 0.5357 | 0.1198     |
| カ) 世の中のためになる仕事であること  | 看護師       | 39          | 3.9487 | 0.8568 | -0.1269    |
|                      | 専門的・技術的職業 | 119         | 4.0756 | 0.7267 | -0.8321    |
| キ) 働く日や時間の融通がきくこと    | 看護師       | 39          | 4.1026 | 0.6405 | 0.0690     |
|                      | 専門的・技術的職業 | 119         | 4.0336 | 0.6881 | 0.5726     |
| ク) 仕事と家庭が両立できること     | 看護師       | 39          | 4.3333 | 0.5774 | 0.0476     |
|                      | 専門的・技術的職業 | 119         | 4.2857 | 0.6263 | 0.4376     |

注) \*\*は有意水準 5%を示す。

配がないこと」、「収入が多いこと」、「自分の能力が発揮できること」、「働く日や時間の融通がきくこと」、「仕事と家庭の両立ができること」である。専門的・技術的職業以外の女性労働者では、「失業の心配がないこと」、「収入が多いこと」、「働く日や時間の融通がきくこと」、「仕事と家庭の両立ができること」となっている。看護師を除く専門的・技術的職業に従事する労働者のグループでは、「失業の心配がないこと」、「興味のある仕事であること」、「自分の能力が発揮できること」、「世の中のためになる仕事であること」、「働く日や時間の融通がきくこと」、「仕事と家庭の両立ができること」である。これらから、専門的・技術的職業以外の女性労働者のみ、「自分の能力が発揮できること」が平均で4点を超えていないことがわかる。一方、看護師を除く専門的・技術的職業に従事する労働者のグループのみ、収入の安定性は4点以下である。しかし、このグループのみ、「興味のある仕事であること」、「世の中のためになる仕事であること」の平均点が4点を超えている。

これまでは、単純な平均点の数値のみで議論を進めてきた。ここから、グループごとの平均値に統計的に有意な差があった質問項目について見ていく。看護師と専門的・技術的職業以外の女性労働者の各質問項目の平均値の差の検定を行った結果、有意水準5%で統計的に有意であったものは「自分の能力が発揮できること」、「世の中のためになる仕事であること」の2つであった。つぎに、看護師と看護師以外の専門的・技術的職業の労働者のグループの差について検討していく。有意水準5%で有意であった質問項目は、「興味のある仕事であること」のみであった。

## 5 考察

### 5.1 経済的な側面に対する考察

看護師と看護師以外の女性労働者の間では、失業の心配や収入に関して重要度に差がなかった。そして、それらの項目の平均値も高い。つまり、女性労働者は共通して経済的な安定を重視していることになる。看護師以外の女性労働者や、将来的にそういった職業

に就く者の人数は今回のデータセットからも多数であることがわかる。もし看護師の収入が増加するような変化が生じれば、これまで職業の選択肢に看護師を含めていなかった女性のなかから一定程度の人数が看護職に移行する可能性があるだろう。高野<sup>18)</sup>において、社会人経験をもつ看護学生の志望動機に関する先行研究の検討が行われているが、「安定した収入を得られる仕事」、「収入を増やしたい」等の経済的安定性を求める理由の存在が指摘されている。また、厚生労働省「看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査」<sup>19)</sup>の看護師3年課程入学状況をみると、入学者2万7,694人のうち、すでに大学や短大を卒業し、社会人経験を経ていると考えられる25歳以上の人数は4,033人となっている。これは看護師3年課程入学者の約14%に相当する。高野<sup>18)</sup>の指摘を踏まえると、これらすべての者が経済的な動機から看護学校に入学しているわけではないが、一部には経済的な動機による他職種からの転職者も存在すると考えられる。看護学生が看護を志望する理由について経済的な側面が強いことは、第2節で言及した先行研究で報告されている。したがって、看護師の賃金を上昇させることは、看護師を目指す学生を増加させることにも効果がある可能性が示唆される。

## 5.2 利他的な側面に対する考察

もし、看護師になるかどうかの決定的な要因が「世の中のためになる仕事であること」であれば、看護師の賃金を増加させることは看護師数の増加に大きな影響を及ぼさない。これについては、どのように対処できるだろうか。Hoke<sup>20)</sup>は自己概念理論(Self-Concept Theory)を用いて、職業決定について若年期は14歳から18歳の結晶期(Crystallization)と18歳から22歳の特定期(Specification)の2段階に分けられ

るとしている。そして、若年層が彼らのこれからのキャリアについて正しく評価するためには、これらの段階が終わるまでに職業についての仕事内容を理解しなければならないと述べている。Hoke<sup>20)</sup>の分析は、初等・中等教育段階の学生を対象に、看護師の仕事内容に関する紹介を行うことで学生が看護職に興味を持つようになったかどうかの効果を検証している<sup>6)</sup>。分析の結果、看護職の紹介を授業内で行った後に看護職に興味を持つ学生は48%にのぼることを報告している。文部科学省<sup>21)</sup>では、1999年12月の中央教育審議会においてキャリア教育が小学校段階から発達段階に応じて実施される必要があるとされたことが示されている。また、中学校2年生の総合的な学習の時間の年間指導計画の具体例には、職業について理解する活動の一環として、職業調べや企業調べ、職場体験活動といったものが挙げられている。このことから、日本においても小学校や中学校の段階で職業について学ぶ機会が重要であることがわかる。Hoke<sup>20)</sup>が行ったように、この時期に学生が看護職について触れる機会を設けることが、看護師を目指す学生を増加させるために必要ではないだろうか。

表3では、「世の中のためになる仕事であること」の看護師の平均点は、統計的に有意ではないものの、看護師以外の専門的・技術的職業の労働者の平均点よりも低かった。学生が看護職に触れる機会を設ける以外に、看護師自身が「世の中のためになる仕事であること」の意識をどのように持ち続けるか、といったことも重要な課題と考える。

## 5.3 統計的に有意な差があったその他の価値観についての考察

5.1節と5.2節では、多くの先行研究が指摘していた、看護師を志望する動機であった

<sup>6)</sup> Hoke<sup>20)</sup>が対象とした学生は第6, 7, 8学年であり、例としてカリフォルニア州において第6, 7, 8学年はmiddle schoolに当てはまる。これは日本の中学校に相当すると考えられる。

経済的安定性と利他性について考察した。ここでは、本研究の分析結果において有意差がみられたその他の価値観について触れる。

表2は看護師と専門的・技術的職業以外の女性労働者を比較した結果であるが、「自分の能力が発揮できること」の価値観において統計的に有意な差を示していた。根岸他<sup>22)</sup>の分析対象は行政保健師であるが、国家資格の要因が行政保健師の職業的アイデンティティ尺度の合計得点に関連していることを報告している。そして、国家資格は保健師自身が専門性を意識することにつながり、アイデンティティを高める要因になっているとの考察も行っている。この解釈に従えば、同様の国家資格を持つ看護師は、専門的・技術的職業以外の女性労働者と比較した場合、自身の専門性を意識し、自分の能力を発揮することを重視していると考えられる。

表3は看護師と看護師を除いた専門的・技術的職業の女性労働者の比較結果であるが、「興味のある仕事であること」以外の項目では有意な差が生じていない。2005年SSM日本調査では看護師も専門的・技術的職業の区分に含まれていたこともあり、2つのグループは似た性質を持つことが確認される。一方で、「興味のある仕事であること」の平均値が有意に異なる結果であった。これについては、看護師になった理由が、看護師の仕事内容に興味があったからなのか、または他者の役に立ちたいがそのための手段という理由で看護師になったのかは本研究の結果からは判断できない。看護師を目指す理由が仕事や業務内容に興味があるからなのか、それとも他者の役に立ちたいという看護師の利他性にあるのかを識別することが必要であると考えられる。

## 6 本研究の限界と今後の課題

本研究は、SSM2005日本調査を使用して

分析を行った。この調査は看護師のみを対象にしているのではないため、本研究において看護師と他職種の女性労働者との比較が行えた。その反面、看護師のサンプルサイズが他の研究よりも少なく、回答者を年齢や所得、正規雇用・非正規雇用等で分けて分析することができなかった。

また、公表されているデータを使用したことにより、調査の時期と本研究の分析の時期にラグが生じている。そのため、本研究の分析結果のすべてが現在の世相を表していると解釈することができないという点に注意が必要である。特に、男性看護師については、「平成28年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況」<sup>16)</sup>によると2006年では3万8,028人だったのに対し、2016年では8万4,193人となっており、看護師の男女比が徐々に変化していることにも着目しなければならない。

今後の課題として、同様の質問項目を含んだ調査を研究者自身で行い、今回の分析結果を踏まえ、現在の労働者の意識と大きな変化が生じているかどうか確認すること、男性サンプルでも同様の結果が得られるかどうか分析することが挙げられる。

## 7 結論

本研究では、看護師とそれ以外の女性労働者の間で仕事に対する価値観が異なるかどうか統計的に分析した。そして、看護職を目指す志望理由を分析している先行研究との対比のため、主に以下の2点の分析結果に焦点をあてて議論を行った。

- 1) 職業の安定性や収入の重要性は、看護師と看護師以外の女性労働者の間で差がなかった
- 2) 看護師は専門的・技術的職業以外の女性労働者に比べて、「世の中のためになる仕事であること」を重視している



1) については、女性労働者は共通して経済的な安定を重視していることになり、看護師の収入が増加するような変化が生じれば、これまで職業の選択肢に看護師を含めていなかった女性のなかから一定数の人数が看護職に移行する可能性が考えられる。2) については、学生が看護職について触れる機会を設けることが、看護師を目指す学生を増加させるために必要であると考えられる。

#### <謝辞>

本研究の分析に当たり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター SSJ データアーカイブから〔「2005年 SSM 日本調査, 2005」(2005SSM 研究会データ管理委員会)〕の個票データの提供を受けた。ここに感謝の意を示す。

#### <参考文献>

- 1) 川越雅弘：看護師・介護職員の需給予測。季刊・社会保障研究, 45-3 : 214~228, 2009
- 2) 自治労連本部・自治体病院闘争委員会：「看護職員の労働実態調査」中間報告, 2011
- 3) 日本医療労働組合連合会：医療労働, 臨時増刊, 2014
- 4) Tsuboi S. and Takeshita R. : Are Nurse Wages Truly High in Japan?, International Journal of Social Science and Economic Research 2-7: 3843~3857, 2017
- 5) 厚生労働省：第 103 回保健師国家試験, 第 100 回助産師国家試験及び第 106 回看護師国家試験の合格発表について, [http://www.mhlw.go.jp/general/sikaku/successlist/2017/siken03\\_04\\_05/about.html](http://www.mhlw.go.jp/general/sikaku/successlist/2017/siken03_04_05/about.html), アクセス 2017 年 9 月 11 日
- 6) 日本看護協会：看護統計資料, <https://www.nurse.or.jp/home/statistics/index.html>, アクセス 2017 年 9 月 11 日
- 7) 酒井志保, 滝内隆子, 佐々木真紀子 他：看護学生の受験理由と看護学科選択理由に関する実態—本学看護学科 1 期生の入学時調査から—。日本赤十字秋田短期大学紀要, 1 : 83~90, 1996
- 8) 堀井直子, 三浦清世美, 久米香 他：本学看護学生の入学時における学科志望動機—志望動機を反映させた教育を探る—。生命健康科学研究所紀要, 4 : 11~20, 2008
- 9) 中谷信江, 木戸久美子, 林隆：山口県立大学看護学部生の進学動機について。山口県立大学看護学部紀要, 10 : 15~19, 2006
- 10) 阿部典子, 神成陽子, 浜めぐみ 他：看護大学生の入学時における看護を選択した動機—看護専修学校生との比較—。北日本看護学会誌, 5-2 : 13~20, 2003
- 11) 一柳陽子, 谷山牧, 山崎千寿子 他：看護学生の入学・職業選択動機の実態と構造。川崎市立看護短期大学紀要, 14-1 : 21~27, 2009
- 12) 上妻瑞江, 安友裕子, 山中克己 他：看護学生の入学時における学科志望動機。名古屋栄養科学雑誌, 1 : 99~108, 2015
- 13) 田島真智子：新卒看護師の離職意思と職業志望動機の関係。看護教育, 42 : 192~195, 2012
- 14) McCabe, R., Nowak, M., Mullen, S.: Nursing Careers: What Motivated Nurses to Choose their Profession?, Australian Bulletin of Labor 31-4: 384~406, 2005
- 15) Mooney, M., Glacken, M., O' Brien, F. : Choosing nursing as a career: A qualitative study, Nurse Education Today 28: 385~392, 2008
- 16) 厚生労働省：平成 28 年衛生行政報告例(就業医療関係者)の概況, <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/16/dl/kekka1.pdf>, アクセス 2017 年 9 月 10 日
- 17) 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター SSJ データアーカイブ：2005 年 SSM 日本調査,

2011

- 18) 高野真由美：社会人経験を持つ看護学生の理解と支援—看護への志望動機と就学上感じる困難について文献からの検討—。川崎市立看護短期大学紀要, 22-1: 37~45, 2017
- 19) 厚生労働省：看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査,  
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/100-1.html>,  
アクセス 2017 年 10 月 15 日
- 20) Hoke, J. L. : Promoting Nursing as a Career Choice, *Nursing Economics* 24-2: 94~100, 2006
- 21) 文部科学省：中学校キャリア教育の手引き,  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/1306815.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1306815.htm), アクセス 2017 年 9 月 11 日
- 22) 根岸薫・麻原きよみ・柳井晴夫：「行政保健師の職業的アイデンティティ尺度」の開発と関連要因の検討。日本公衛誌, 57-1: 27~38, 2010